

・・・第7回日露親善テニス交流会を振り返って・・・

新潟市テニス協会
会長 前田 奉司

7月19日 朝9時 ロシア側テニス交流団のメンバーより成田空港から電話が入り、無事帰国することになった。

新潟での交流会では皆さんに大変お世話になり、素晴らしい交流会が出来た、心よりお礼の言葉を日本の皆様に伝えてほしい・・・との伝言を依頼された。

この電話を受けて、自分にとって今回の交流会が漸く終わったことを実感出来、昨年以来続けてきたこれまでのことを思い出しながら胸が熱くなった。

この半年間、ロシア側テニス関係者との度重なる打ち合わせ、新潟市テニス協会関係者との準備作業等いろいろあったが、最も心を砕いたのは、受け入れ側の新潟市テニス協会がこれまで東京野津田クラブ、佐渡テニス協会の皆さんが示してくれた誠意に負けない新潟県人としての「おもてなしの心」を新潟に集まってくれたテニス仲間にも如何に示せるかということであった。

結果として、新潟県、新潟市の協力と新潟市テニス協会の関係者の素晴らしいチームワークと統率力でロシアおよび東京から参加したテニスマン達に「新潟の心」を十二分に示すことが出来たと思う。

東京の人たちからも多くの新潟の人達の心のこもったおもてなしに感激したとの感想が述べられた。

前日まで雨続きであった天気まで、奇跡的に7月16日の開会式の日には梅雨明けというお膳立てを整えてくれた。開会式にはハバロフスク行政府ロパーチン副知事、夜のお別れ会にはブーチン総領事も駆けつけてこの交流会を祝ってくれた。



テニス交流会では、ロシア側よりの参加者 9 名、および東京、佐渡からの参加者を含め 80 名の団体戦となり、和気藹々の雰囲気の中で、激しい試合が展開された。

前夜祭とお別れ会ではテニス談義の他に打ち解けた雰囲気の中で日ロ双方の関係者の間で素晴らしい交流が行われた。夜の部ではロシア組、新潟組も頑張ったが、野津田クラブの面々の頑張りもすごかった。



状況の変化により大変高額になった日本までの旅費を工面して参加してくれたロシア関係者、これまでの友人に会う為に遠路はるばる参加してくれた東京野津田クラブ、佐渡テニス協会関係者・・・彼等を結びつけたのは、テニスを通じた信頼関係であった。

新潟のテニス関係者が皆で力を合わせて各地域のテニスマン達の心を一つにすることが出来た事は、我々新潟のテニスマンにとって何物にも代えがたい収穫であったと思う。

又、これまでの7回の交流会通じて毎回、野津田クラブの尽力でDANLOP社の全面的な協力を得ることができた事も我々の大きな支えとなった。

ハバロフスク市と新潟市の姉妹都市 45 周年を迎えた今年、このような大会を新潟で成功裏に開催することが出来たことは、両市にとっても大変意義深いことであり、このような地道な交流が今後の日露間の相互信頼関係の発展に大きな役割を果たすことが期待される場所である。

この場をお借りして改めて関係者のご努力に感謝申し上げたい。

